

&lt;2ページ&gt;

「ごみ減量サポーター研修会と施設見学会」を開催しました！！

・研修会 続き

&lt;3ページ&gt;

「ごみ減量サポーター研修会と施設見学会」を開催しました！！

・研修会 続き

&lt;4ページ&gt;

「ごみ減量サポーター研修会と施設見学会」を開催しました！！

・施設見学会  
・参加者の声



# ごみ減量サポーターニュース

発行：町田市環境資源部3R推進課

## 「ごみ減量サポーター研修会と施設見学会」を開催しました！！

今号では、2022年1月25日（火）、26日（水）、27日（木）に行いました「ごみ減量サポーター研修会・施設見学会」の様子をお伝えいたします。

研修会では、「1.町田市のごみの現状と市の取組、2.回収後のごみと資源のゆくえ、3.ごみの減量と今できること」の3つのテーマについて講義型の研修を行いました。2.回収後のごみと資源のゆくえについては、2020年度のごみ減量サポーターアンケートで「是非ききたい！」と要望があり実現したものです。

施設見学会では、2022年1月15日にオープンしたばかりの「町田市バイオエネルギーセンター」をご見学いただき、熱回収施設やバイオガス化施設をメインに、工場内を実際に見ながら学んでいただきました。

3日間（4回）の開催で、延べ75名の方々にご参加いただきました。ご参加ありがとうございました。

### 【研修会】 70分

- ① 開会・挨拶
- ② 講義
  - 1.町田市のごみの現状と市の取組
  - 2.回収後のごみと資源のゆくえ
  - 3.ごみの減量と今できること
- ③ 質疑応答

### 【施設見学会】 70分

町田市バイオエネルギーセンター

- ①不燃・粗大ごみ処理施設
- ②熱回収施設
- ③バイオガス化施設



## \* \* 研 修 会 \* \*

### 1.町田市のごみの現状と市の取組

町田市では、「町田市一般廃棄物資源化基本計画」のもと、市民・事業者・行政みんなで「ごみになるものを作らない・燃やさない・埋立ない」を原則として、徹底したごみ減量、資源化を進め、持続可能で環境負荷の少ない都市を目指しています。

その中で2030年度までに、①「1人1日あたりのごみ排出量」を「2019年度比7%削減すること、②「資源化率」を「40%」まで高めること、③「温室効果ガス排出量」を2019年度比30%削減」することを目標に掲げています。

町田市のごみ量は、2018年度までは順調に減少してきましたが、2019年度・2020年度と増加に転じています。その理由として、2019年10月の消費税の増税、2020年に入ってから新型コロナウイルス感染症がまん

延したことによって外出自粛が求められ、テイクアウトの増加や“巣ごもり”生活の中での断捨離などが考えられます。

下図をご覧ください。旧施設「町田リサイクル文化センター」と新しくできた施設「町田市バイオエネルギーセンター」の処理量です。何か気づくことはありませんか？

#### 町田リサイクル文化センター

476トン/日 (2・3号炉 各150トン/日 4号炉 176トン/日)  
(2020年度清掃事業概要)

#### 町田市バイオエネルギーセンター

焼却施設 258トン/日 (129トン/日 2基)  
バイオガス化施設 50トン/日

(町田市資源循環型施設整備基本計画)

そうです、処理できる量が減っています。ごみ量が増えている今、このままでは、新しく稼働したごみの焼却施設では処理し切れない可能性があります。町田市全体として、ごみの減量が必要となっています。

市の取組は、「4コマ」×「マップ」で伝えるごみ減量3Rマップ」を使って紹介しました。この3Rマップは、子どもから大人まで楽しみながら3Rについて学ぶことを目的に作成したもので、3Rを推進するための行動事例や市の取組を4コマ漫画で紹介しています。ぜひご一読ください。



▲研修会の様子

## 2.回収後のごみと資源のゆくえ

「ごみ」は、燃やせるごみ・燃やせないごみとあります。燃やせるごみの中には、生ごみや紙くずなどの日常生活から出る可燃性のごみが入っています。燃やせないごみの中には、食器やおもちゃなどの簡単に燃やすことができないごみが入っています。みなさんから出されたこれらの「ごみ」は収集車で回収され、清掃工場で適正に処理されています。

「資源」は、使い終わったものでも分別をすることで新たな製品に生まれ変わるもののことを言います。

### “燃やせる” ごみのその後は？

燃やせるごみは焼却炉で灰と排ガスに変わります。ごみを焼却してできた熱を利用して施設の電気を作ったり、電力会社に売ったりしています。



焼却に伴ってでた灰は金属を選別し、リサイクル業者へと運ばれて新たな鉄製品に生まれ変わります。また、町田市では「エコセメント事業」を行っています。ごみを燃やした後に残る焼却灰は東京都日の出町にあるエコセメント化施設へ運ばれてエコセメントになります。道路の側溝やベンチなどのセメント製品にリサイクルされています。

### “燃やせない” ごみのその後は？

燃やせないごみと粗大ごみはどうなるでしょうか。まず、粗大ごみ。再生可能なものは修理しリサイクルショップで販売しています。燃やせないごみは、清掃工場で手選別コンベヤで小型家電などの処理が難しいものを取り除きます。その後、高速回転破砕機で15cm以下に細かく砕かれ、磁力選別機という強力な磁石でくっつけて鉄成分を取り出します。アルミはアルミ選別機で選別します。

最後に資源化されずに残ってしまった細かいごみだけ、燃やせるごみとして焼却されます。

### “資源” のその後は？

資源の種類は右図のとおりたくさんあります。資源の中で一番回収量が多いもの、それは古紙・古着です。市では、「なぜ分別しないのか」というアンケートを取ったことがあります。その理由として、75%を占めていたのが

資源の種類

- ・アルミ缶、スチール缶
- ・びん
- ・ペットボトル
- ・古紙・古着 回収量 1位
- ・剪定枝
- ・小型家電
- ・インクカートリッジ
- ・白色発砲トレイ
- ・有害ごみ

「処理に手間や労力がかかるから」という回答でした。分別するより、ごみとして廃棄したほうが楽と考えている方がまだまだいます。ごみを減らしていくためにもきちんと資源の分別を学んで、普段から分別を心がけることが大切です。





## アルミ・スチール缶

中間処理施設へ運ばれます。中間処理施設では、磁石を使ってアルミとスチールに分け、圧縮して大きな缶の塊を作ります。運搬をやすくするために圧縮します。リサイクル業者を通して新しいアルミやスチールの製品に生まれ変わります。

## 古紙・古着

古紙問屋に運ばれ、不適物が入っていないか選別されます。選別後は圧縮・梱包され、海外に輸出されて、現地の人により加工・再利用されています。別のルートとしては、リサイクル業者によってトイレットペーパー等新しい製品に生まれ変わっています。

## 剪定枝

燃やさず、埋め立てない「みどりのリサイクル」で、町田市内の公園や道路・家庭などで刈り取られた枝をリサイクルしています。剪定枝は、破碎機で細かくし、圧力を加えてすりつぶしながら混ぜ合わせ、小さなチップ状にしていきます。約2ヶ月間、発酵、熟成させ、たい肥の完成です。

## 3.ごみの減量と今できること

### 「ごみ」とは？

「ごみ」と聞くと、どんなものを連想しますか？

汚いもの、もういらぬもの、使い終わったものなど、最後にごみ箱に捨ててしまうものを連想するのではないのでしょうか？

では、普段「ごみ」として捨てているものは本当に「ごみ」でしょうか？「ごみ」がそのまま増えてしまったらどうなるのか、減らすためにできることを考えてみましょう。

### なぜ、「ごみ」を減らすのか？

#### 「ごみ処理費用」

ごみを処理するには、施設や収集車を動かす費用、そこで働く人の人件費など、多くの費用がかかっています。この費用は税金から出ています。ごみを減量することで、今までごみの処理に使っていた費用を他の公共事業に使うことができます。

#### 「環境問題」

工場でごみを燃やすと二酸化炭素が発生します。ごみを集めるために収集車を動かすことでも二酸化炭素は発生します。たくさんの二酸化炭素が排出されることにより、地球温暖化の問題にもつながっています。

費用の面、環境問題の面からも、やはりごみを減らすことは大切です。では、ごみを減らすためにはどうすればいいのでしょうか。「ごみを減らすための3つのキーワード」である**3R**を紹介します。



### 1つ目のR “リデュース”

「なるべくごみを出さない」、何かをやる前に少しかだけ「考える」ことです。

例えば、食事は残さないで全部食べる。外出するときは、水筒を持っていく。買い物の時は、エコバッグを持っていきレジ袋はもらわない、などです。

### 2つ目のR “リユース”

「物を大切にくり返し使う」、物を大切に思う気持ちを持つことです。

例えば、リサイクルショップやフリマアプリを利用する。使わないタオルは、ぞうきんとして使用する。物が壊れた時は、できるだけ修理する、などです。

### 3つ目のR “リサイクル”

「使い終わったものを分けて資源にする」ことです。リサイクルは分別するだけではなく、リサイクル製品を使うことも大切です。

3Rには優先順位があります。まずはリデュース（ごみを作らない）、そしてリユース（何度も大切に使う）、それでもだめならリサイクル（分別して資源にする）です。

## \* \* 施設見学会 \* \*



施設見学の様子を少しだけご覧いただきましょう。  
 「見学してみたい」「気になった」という方は、個人でも団体でもご見学いただけますので、ご家族やお友達、地域の方々などと一緒に、ぜひ町田市バイオエネルギーセンターへおいでください。



## \* \* 参加者の声 \* \*

- ◆ 改めて、ごみに向き合い、学ぶ機会になり、大変良かったです。  
日々減量に取り組んでいますが、町田市の現状を知ることにより、更に続けようと思います。
- ◇ バイオエネルギーセンターの素晴らしさを認識出来た。  
稼働開始が待望のことであったと感じたし、このことは市民全体に広報すべきで、是非ともやっていただきたい。
- ◆ 町田市のゴミの量処理費用等、日常自覚なく生活していたと思います。  
自覚する事で3Rの問題はかなり改善されると感じました。東京都23区や他市との比較した違いを知りたい。
- ◇ 様々な物が細かく再資源化されていることがわかった。より多くの市民がこの内容を知る必要があると思う。
- ◆ 回収後のごみと資源の内容は興味深いものでした。ひとり、ひとりの考えでごみの減量出来るのですね。



町田市 ごみ減量サポーター



研修の資料はこちらからダウンロードできます

「ごみ減量サポーターニュース」の記事への問い合わせについては、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

＜お問い合わせ先＞  
 町田市環境資源部  
 3R推進課  
 TEL：042-797-0530  
 FAX：042-797-5374